

宮城県林業普及活動情報

2022. 12月号 No. 175

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2 ~ 1 0

- 森林浴スプレー「蔵王の森のしずく」サンプル配布及びアンケートの実施
(大河原地方振興事務所)
- こけし用木材調達に係る支援
(大河原地方振興事務所)
- 仙南地域ドローン基礎操作研修会
(大河原地方振興事務所)
- 七ヶ宿町森林組合及び新規就業者の人材育成研修支援
(大河原地方振興事務所)
- せんなんマルシェin大河原合同庁舎の開催
(大河原地方振興事務所)
- 森林経営管理制度の取組推進に向けた市町村個別指導
(仙台地方振興事務所)
- 黒川森林組合参与員会で森林経営管理制度と森林整備についてPR
(仙台地方振興事務所)
- 森林経営管理制度の推進
(北部地方振興事務所)
- 森林マネジメント力強化支援 森林管理者研修
(北部地方振興事務所)
- 森林科学館の「移動展示会」開催への支援 (北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
- 「森林経営管理制度説明会」への参画 (北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
- 森林育成事業の進捗状況確認と作業安全徹底の指導
(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
- 鹿食害対策の効果調査
(東部地方振興事務所)
- 産業人材の確保対策の検討
(東部地方振興事務所)
- 合板用県産材の供給等に関する調整会議検討会
(東部地方振興事務所)
- 「木育」活動の推進
(東部地方振興事務所)
- 高校生の林業インターンシップ支援 (東部地方振興事務所 登米地域事務所)
- 漁業における森林資源の利活用促進に向けた支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 伐木等の業務労働安全衛生特別教育(第2日目/3日)の実施(林業技術総合センター)
- スマート林業研修会(スマート林業・森林調査講座)の開催(林業技術総合センター)

森林浴スプレー「蔵王の森のしずく」 サンプル配布及びアンケートの実施

大河原地方振興事務所

【1日(木), 2日(金)】

規格外苗木を使って制作した、天然アロマウォーターについて、「蔵王の森のしずく」と命名し、県の産業技術総合センターが作成したパッケージデザインを用いて制作したサンプル品を、県庁で開催された「山の幸販売会」において配布しました。当日は、一般消費者に匂いを確認していただき、好きな香りの「蔵王の森のしずく」のサンプル配布とアンケート調査を実施したところ、121人から回答があり、消費者ニーズを把握することができたため、今後の商品化へ向けての参考としていきます。また、ミニポット苗の販売も試験的に行ったところ大変好評で、参加した苗木生産者からは、今後の取り組みに意欲的な意見が聞かれました。

引き続き、商品化へ向け、販売体制の整備や、パッケージデザインのブラッシュアップなど、産業技術総合センター等関係機関と連携しながら支援していきます。



【蔵王の森のしずくサンプル配布の様子】



【ポット苗販売の様子】

こけし用木材調達に係る支援

大河原地方振興事務所

【6日(火), 16日(金)】

白石市の弥次郎こけし工人から、こけし用の木材調達に関する相談があり、関係者による打合せを行いました。伐採事業者の高齢化等により木材入手が困難となった現状の把握と、こけし用材として納入を希望する樹種や規格、納入時期等について整理しました。

後日、納入可能な伐採事業者が管内にいたことから、再度関係者による打合せを行った結果、令和5年1月に試験的に納入することとなりました。

今後も関係機関と連携しながら、みやぎを代表する伝統工芸品である弥次郎こけしを守るために、計画的なこけし用木材調達の体制整備にむけて、支援していきます。



【打合せの様子】

仙南地域ドローン基礎操作研修会

大河原地方振興事務所

【7日(水)】

大河原地方振興事務所管内においてスマート林業による森林整備を推進するため、外部講師を招き、森林組合等林業事業体を対象としたドローン操作基礎研修を開催しました。

ドローンを取扱う上での航空法等の基礎知識についての講義や、実際に様々なドローン機器の操縦体験を行ったことで、スマート林業に関心を持っていただく良い機会となりました。また、意見交換では、導入に向けた機器選定等に関する質問などもあったほか、後日、ドローン等購入の補助事業に要望が出されるなど、今後、仙南地域の林業現場においてドローンの活用が期待されます。



【ドローン操作の様子】

七ヶ宿町森林組合及び新規就業者の人材育成研修支援

大河原地方振興事務所

【20日(火)】

七ヶ宿町において町内の林業事業体を支援するために「伐倒技術研修」が開催されました。

当研修は、2年後に開始される伐木技能検定の実技試験方法に基づいた内容で、外部講師による林業労働災害と対策、チェーンソー操作の基本等の講義や伐倒訓練を行ったあと、参加者による伐倒競技会も開催され、作業員の技術の向上につながりました。

当事務所普及員からは、伐木関係の資料を使い、現場での確実な基本操作と安全確保が災害防止につながることを説明し、理解いただくことができました。



【研修会の様子】

せんなんマルシェ in大河原合同庁舎の開催

大河原地方振興事務所

【21日(水)】

当所の各部と連携し、仙南地区の農林産物や加工品、工芸品等を広くPRする販売会を開催しました。

今回の販売会は、クリスマスやお正月をテーマに、各部の所管分野における特色を活かしながら、管内のさまざまな生産者・事業者に出店していただきました。

特用林産物関係では、きのこ、ぎんなん、



【販売会の様子】

苗木、炭製品などを販売したほか、試作中のアロマウォーターのアンケートや、コケの無償配布も行うなど、消費者に向けて幅広くPRを行い、多様な内容で集客効果も上がり、完売商品も続出したことから、山の幸の魅力を伝えるいい機会となりました。今後も、仙南の山の幸の販路拡大に向け、生産者支援を継続していきます。

森林経営管理制度の取組推進に向けた市町村個別指導

仙台地方振興事務所

【8日(木), 15日(木)】

森林経営管理制度の取組を推進するため、市町村サポートセンターとともに、大衡村が来年度、意向調査を行う候補地を踏査しました。

その結果、林縁部にはササやクズが繁茂しているものの林道に近く森林整備が可能なスギ林分があったため、この箇所を中心に意向調査を進めていくこととなりました。

今後も、サポートセンターと連携し、森林経営管理制度の推進を図ります。



【大衡村での候補地確認の様子】

黒川森林組合参与員会で森林経営管理制度と森林整備についてPR

仙台地方振興事務所

【21日(水)】

大和町の「まほろばホール」において、黒川森林組合の参与員会が開催され、当事務所から森林経営管理制度と森林環境譲与税、及び森林整備に関する国庫補助事業の方針の変更について説明を行いました。

参与員会には各地区の組合員の代表等60名の出席があり、森林経営管理制度については市町村によってはすでに意向調査が始まっていること、森林環境譲与税を使い協定等による森林整備や作業道整備等に対する市町村の補助も可能であることを説明し、市町村への働きかけ等について提案しました。森林整備に関する国庫補助事業の方針の変更については、長伐期施業から一貫作業システムを活用した皆伐再造林へと方針を転換していることについて説明を行いました。

今後も森林所有者等への制度の周知を図るとともに、森林組合と連携しながら、制度等の活用を推進していきます。



【参与員会の様子】

森林経営管理制度の推進

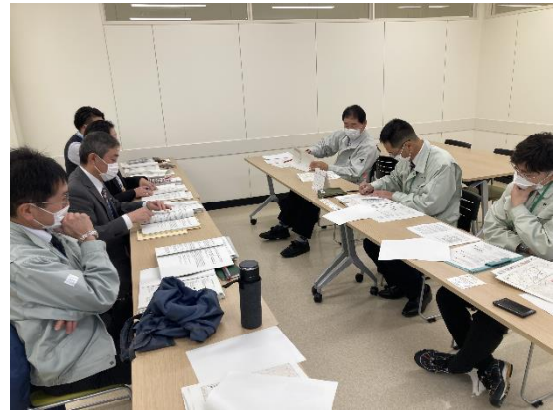
北部地方振興事務所

【14日(水), 26日(月)】

意向調査後の手続き(集積計画作成等)が中々進まず森林整備に繋がらない状況を打開するため、モデル的に管内2町への支援を実施することとし打合せを行いました。

その結果、両町からモデル支援への了解が得られたことから、町と県とで役割分担する等して、意向調査後の集積計画作成に向けた作業を行うこととなりました。また、モデル支援について、管内の森林組合と情報共有を図りました。

今後、町の令和5年度森林整備事業として発注できるよう作業を支援していきます。



【町との打合せの様子】

森林マネジメント力強化支援 森林管理者研修

北部地方振興事務所

【16日(金)】

公益財団法人みやぎ林業活性化基金が主催し、経営ビジョンを策定し、実現に向けた事業(改善)計画を作成する研修に、管内の林業事業体1社と参加しました。

当日は、これまでに事業体内で話し合い社員の率直な思いや考えによって方向性を見出した、仮の経営ビジョンの取りまとめを行い、実現に向けた行動計画を作成して発表することができました。

他の研修参加者の発表も参考にすることができ、林業事業体とともに普段あまり意識することのなかった経営ビジョンについて考える良い機会となりました。



【研修会の様子】

森林科学館の「移動展示会」開催への支援

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【5日(月), 14日(水)】

栗原市花山地区の「こもれびの森・森林科学館」は、積雪のため例年12月から翌年の2月までの3ヶ月間は休館となりますが、昨年に続き栗駒山麓ジオパーク・ビジターセンターの企画展示室をお借りし、森林科学館から森林や野鳥等のパネル等の展示物の一部を移設した展示会が開催されました。当初、本年度の開催は流動的でしたが、当事務所主催の「くりはらde苔アート・テラリウム展」との同時開催による相乗効果



【ジオパーク・ビジターセンターの展示会場】

を期待して、森林科学館とビジターセンターの両者をコーディネートし、開催に至りました。

開催期間は令和4年12月17日から令和5年2月27日までですが、こもれびの森でみられる動植物・きのこのパネルや木の標本の展示のほか、1月22日と2月19日には、こもれびの森の自然素材を使った「ネイチャークラフト体験コーナー」も設置されることとなりました。

一方、2月4日から26日まで同時開催となる「くりはら de 苔アート&テラリウム展」で苔オブジェ作品を手がける事業者に対しては、苔の採取や養生、搬入、資材調達先をアシストし、造園業者を含めた苔ネットワークの連携を深めることができました。

苔を題材とした新たなアート展や移動展示会において、多くの来場者が栗駒山麓の苔や動・植物をより身近に感じ取り、新たな体験・学びを通して、自然を大切にする意識がより育まれる事を期待しているところです。



【パンフレットも作成しました】

「森林経営管理制度説明会」への参画

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【9日(金), 16日(金)】

栗原市から意向調査を受託した栗駒高原森林組合が森林所有者を対象に開催した標記説明会に同席しました。

説明会当日は、鶯沢地区（9日）17名、花山地区（16日）14名の参加があり、本制度説明後の質疑応答から、概ね、所有森林の管理を市にお願いしたいと感じられました。

今後は、森林組合において、意向調査結果をとりまとめ、集積計画策定作業へ進むことから引き続き、市及び森林組合と連携を図っていきます。



【説明会の様子】

森林育成事業の進捗状況確認と作業安全徹底の指導

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【14日(水)】

森林育成事業等の補助事業は、今後、検査が多数見込まれるので、事務処理及び検査の予定を立てるため、森林組合の担当者から直接話を聞き、情報の共有を図ると共に、進捗管理表を更新しました。また、12月以降は、降雪が見込まれるので間伐作業での事故や怪我等について十分注意するよう指導しました。



【担当職員と情報共有】

鹿食害対策の効果調査

東部地方振興事務所

【6日(火)】

造林地の鹿対策検討のため、石巻市渡波において、約10年前に施工した防鹿設備（防鹿柵・単木保護チューブ）におけるスギ林の生長経過を調査しました。

その結果、柵内（延長約270m）と、柵外の単木チューブ（数百本）のいずれとも、ほとんどの苗に損傷なく、樹高4～5mまで生長し、初期の食害は免れたことが確認されました。しかし、一部のチューブ内では幹が充満し、通水不全で枯損が発生していることから、速やかな資材撤去が必要と判断されました。



【調査の様子】

産業人材の確保対策の検討

東部地方振興事務所

【12日(月)】

地域の産業人材確保のため、管内高校の進路指導担当者、市町、商工会議所及び所内農林水産担当をメンバーとした意見交換が当所地方振興部主催により開催されました。

今年度の確保事業の実施状況等を検討したところ、参加者からは、「企業側の新入社員教育（働く心構えなど）も必要」、「高校生の場合、保護者の意向も大きく、保護者向け説明が有効」、「中小企業が多いので、地域合同の研修や交流会を行っており、もっと参加企業を増やしたい。」、「支援学校生の場合、就職先に加え、居住先（グループホーム等）の確保が必要。」、「ガイドブックは若者の視点に合わせ、もっと見やすく作った方が良い。」など、様々な意見が出され、次年度の課題が共有されました。



【意見交換のようす】

合板用県産材の供給等に関する調整会議検討会

東部地方振興事務所

【23日(金)】

合板用県産材原木の安定需給を目指し、宮城北部流域森林・林業活性化センター石巻支部と協力して会議を開催しました。まず、4月～11月の需給実績と今後の需給計画が報告され、今夏以降、合板需要が落ち込み、合板各社が20%の生産調整がつづけられる一方、山側では伐採適期に入り、山土場等で原木の滞留が発生している状況が話し合われました。出席者からは、製品と原木価格の維持には生産調整はやむを得ないとする一方、県産材の優先調達に対する配慮や、滞留材に関する仕分け・運送費の掛増し経費に対する支援要望等の意見が出されました。

なお、当方からは、管内の高校生就職支援に向けた取組みの報告と県内木造住宅着工状況について情報提供を行いました。



【調整会議状況】

「木育」活動の推進

東部地方振興事務所

【24(土)】

県の木育活動推進事業を活用し、管内の工務店主催で木工教室が開催されました。

東松島市矢本西市民センターを会場に、親子12組(24名)が参加し、「丸太切り」、「紙やすりかけ」、「カンナかけ」、「クリスマスツリー製作」などで、木とふれあってもらいました。当工務店では、今年度2回目の開催で、つくったものは全て持ち帰ることができ、参加者からは「丸太切りは大変だけど、全部切れて嬉しい。」、「紙やすりをかけると木がスベスベになってすごい。」といった感想が聞かれるなど、大変好評な体験の機会となりました。



【クリスマスツリーの完成】

高校生の林業インターンシップ支援

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【9日(金)】

津山町林業研究会が主催する林業インターンシップに協力し、古川工業高等学校の生徒(建築科)の植栽体験や単木防除資材の設置体験の作業指導を行いました。ニホンジカの被害対策として実施した単木防除資材の設置については、慣れない作業となり支柱やアンカーの打込みに苦勞しました。

生徒からは、寒暖差が植物の成長に与える影響やニホンジカ対策に要する費用など様々な質問がありましたが、林研メンバーと林業普及指導員が各々の専門分野から回答し、森林・林業に関する最新の知識を広めることができました。



【コンテナ苗植栽方法の説明】

漁業における森林資源の利活用促進に向けた支援

気仙沼地方振興事務所

【14日(水)】

今般、南三陸森林管理協議会事務局から、町面積の約8割を占める森林資源を、漁業用資材として利活用したいとの相談があったことから、県漁業協同組合志津川支所組合長を始めとする関係者との意見交換実施について支援しました。

意見交換において、南三陸町は、全域が分水嶺の内側に囲まれた、「森・里・海の恵みが豊かな町」であり、FSC森林認証及びASC養殖場認証の両認証を取得した世界初の自治体であることから、山と海の連携を形にしたいとの意見がありました。

森林資源の利活用に向けては、資材の選定(木材又は竹)、既存資材とのコスト比較、どの種の養殖施設にするかなど、検討を要する課題はあるものの、今後も引き続き検討会を重ね、実用化に向けた支援を行っていきます。



【FSC・ASC認証関係者等による意見交換会】

伐木等の業務労働安全衛生特別教育 (第2日目/3日)の実施

林業技術総合センター

【1日(木)】

当所研修棟において県林務職員が、現場においてチェーンソー作業を実施する際に、労働基準法で事業者に求められる義務と同等の責務を確保するため、3名の受講者を得て労働基準法に規定する標記教育の6時間分を実施しました。

カリキュラムは、必要教程のうち「伐木作業に関する知識」(3時間)の学科教育、「チェーンソーの操作」(2時間)及び「チェーンソーの点検及び整備」(1時間)の実技教育です。詳細は、林業・木材産業労働災害防止協会発行のテキスト「チェーンソー作業の安全ナビ」のカリキュラムの対応した章に沿って説明した他、林業機械実習舎において操作実習を実施しました。



【屋内練習の状況】



【実技の状況】

スマート林業研修会（スマート林業・ 森林調査講座）の開催

林業技術総合センター

【7日(水)】

宮城県スマート林業研究会とみやぎ森林・林業未来創造カレッジの共催によりスマート林業研修会（スマート林業・森林調査）を実施しました。

津山町森林組合（GNSS測量機器SP20）・宮城十條林産株式会社（写真測量用ドローンPhantom4RTK）・株式会社マプリー（林業計測用アプリケーションmapry林業）・宮城県林業技術総合センター（GNSS測量機器RWP）が講師となり、現地にて各機器の実演・操作体験、室内にて各機器の説明・意見交換を実施しました。講師や林業事業者、行政機関等多様な主体が参加したことで幅広く活発な意見交換が行われました。

今後も全員で考え、情報を共有する機会を設けていきたいと考えています。



【津山町森林組合GNSS測量機器】